

平成29年度第1回徳島市立図書館協議会 会議録要旨

- 1 日 時 平成29年8月22日(火) 14:00～15:40
- 2 場 所 徳島市役所 11階 1101会議室
- 3 出席者 委員 委員長 三木スズエ(家庭文庫代表)
副委員長 新 孝一(四国大学 日本文学科准教授)
委員 加統 和代(助任幼稚園長)
井上 明美(入田小学校長)
吉成 正一(市文化協会会長)
細井 啓造(市社会教育委員長)
諏訪 公子(市中央公民館運営審議会委員)
加村 祐志(市議会文教厚生委員会委員長)
佐藤 義忠(元富田中学校長)
板東 恵子(市婦人連絡協議会会長)
若松 義明(徳島市・名東郡PTA連合会会長)
吉本 勝彦(徳島大学附属図書館館長)

事務局 市教委 石井教育長

(社会教育課) 西名課長、建島課長補佐、山口係長、堤主査、澤田主査

図書館(指定管理者) 國金館長、廣澤副館長、勝浦副館長、佐野副館長、渡部チーフ

4 議 題

(1) 管理運営体制について

図書館長より説明

<質疑応答>

特になし

(2) 平成28年度の事業報告について

図書館長より説明

<質疑応答①：図書登録について>

委員 市立図書館本館と移動図書館との本の入替えというのはあるか。

事務局 入替えはないが、例えば移動図書館の本を本館に移動し、移動図書館の特集を設置し、貸出できるようにしている。

委員 もともと別系統での収集か。

事務局 登録自体が別々になっている。リクエスト等については、本館にない分は移動図書館からもつ

てきて貸出をしている。

<質疑応答②：おはなし会について>

- 委員 説明を聞いていると移転5周年の立派な活動がおこなわれているという印象を持った。
- 委員 子ども室にて午前、午後と毎日2回スタッフの方がおはなし会をされているが、毎日というの
はすばらしい。
- 事務局 全国の図書館をみても、毎日2回おはなし会を開催している図書館は、市立図書館以外にない。
- 委員 子どもたちは、その時間を楽しみにして、おはなし会に参加しているので、定着しているのでは
ないだろうか。
- 事務局 私ども図書館スタッフだけでは、1日2回は実施できない。三木委員長はじめボランティアの
皆様のお力添えがあつてのことであり、多様なイベントが開催でき、子どもたちが飽きずに来
館してくれていると考えている。
- 委員 ボランティアの方はどんな方がいるのか。
- 事務局 ボランティア団体については、図書館概要P16にボランティア団体実施イベントを掲載して
いるので参照していただきたい。
- 委員 おはなし会などに参加する子どもたちは、図書館の近くに住んでいる子どもが多いのか。
- 事務局 実際にどこから来られたかは不明であるが、保護者の方に伺うと、バスや車での来館の方もあ
り、遠いところからも来てくださっていると思う。また、小学校や幼稚園、保育園が駅前に出
てこられた際には、図書館見学として、おはなし会に参加して下さっている。
内町小学校区内に図書館があるため、内町小学校にお願いし、図書館だよりを児童の自宅に持
って帰ってもらうようにしている。

<質疑応答③：移動図書館について>

- 委員 図書館概要P37「移動図書館の巡回の拡大」では、現在巡回先が76箇所。図書館に行けな
い地域の方にとっては非常にありがたいが、昨年と比べていくらか巡回箇所が増えたのか。
- 事務局 昨年度からは箇所数としては同じであり、廃止した箇所が3箇所、増えた箇所は3箇所である。
- 委員 どんどん増やすというのは、スタッフ数などもいろいろあるだろうが、来てほしいという場所
については要請に基づいて検討されているのか。
- 事務局 徳島市教育委員会と協議を行い、対応している。

委員 自身の近隣の集会所にも移動図書館が来ており賑わっている。他の場所で、要望があれば検討していただきたい。

事務局 現在、イオンモール徳島と協議中である。

委員 移動図書館車は駐車スペースの確保が必要で、どこでも良いとはいかないだろう。

<質疑応答④：予約について>

委員 予約件数が約134,000件もあるが、予約の分類の内訳はどうか。文学が多いのか。

事務局 文学、雑誌が多い。雑誌では、経済誌などを読まれる方が、継続的に読まれていることも要因である。

委員 予約やリクエストをお断りするようなこともあるのか。断る理由を教えてくださいという場合もあるかと思うがどうか。

事務局 お断り件数は、現時点で分かりかねるが、予約に関しては、当館に所蔵がある本に対して予約を受け付けている。リクエストについては、所蔵がないものへの要望になるが、できるだけ購入の検討をしている。それでも、高額図書、専門書、また購入した後に他の方が利用されるかどうかなどを考慮し、判断する場合もある。そのほかに流通がなく購入できない本や出版が古いものについては、相互貸借により、県内の図書館や四国内外の図書館、大学図書館、国立国会図書館まで調べて提供することもある。

委員 本のリクエスト方法について、リクエスト申請用のシステムが昨年2月頃に変更され、現在は地方自治体のシステムを使っていると思う。変更された当初は、タイトル欄の入力できる字数に制限があり、受付済みメールの中にリクエストしたタイトル名が無かったなど不具合があったが、徐々に改善されたように思う。そういった改善は利用者の声があったか。

事務局 2月にシステムを変更した際に、利用者の皆様から様々な要望を受け、システム管理会社へ依頼し、調整を重ねた。

<質疑応答⑤：資料費について>

委員 1カ月ほど前の徳島新聞に、県内図書館の図書購入費について記事が載っていたが、徳島市の場合は、図書の購入費は下がっているのか。

事務局 徳島市の場合は以前より増えている。市民一人当たり約240円。県内平均額と同じくらいである。

委員 県内では0円というようなところもあったと思う。

事務局 資料費予算が多いのは、県南の町立図書館である。人口が少ないこともあり、一人当たりの金

額は多くなっていると考える。

徳島市としては約5,700万円の予算をつけている。

委員 過去の予算と比べてどうか。

事務局 図書館が移転してから予算を増額し、それ以降は同額である。中央公民館に図書館があった時より、約2,000万円増額している。

県内で一番予算をいただいている。資料費は、税金であるため有効に使用したい。

(3) 平成29年度の事業活動について

図書館長より説明

<質疑応答①：学校連携について>

委員 入田小学校は、交通の便が悪いところにあり、なかなか図書館に行けない。駅前に出るときは図書館に寄るようにしている。その際に100冊ほど借りることがあり、多量の本を運ぶ作業が困難である。その場合の対応を検討していただきたい。

学校ではペア読書(二人で同じ本を読みあう)を実施している。このような取り組みに対して、1タイトルを複数冊数貸し出してもらえるのか。

事務局 2冊以上所蔵があるものをリストアップし、そこから選んでいただければ、すぐに対応は可能である。

委員 学年別のおすすめの本が分かれば助かる。中学年向けが特に難しい。図書館からのおすすめの本のリストはあるか。

事務局 夏休みのおすすめの本のリストを作成している。低学年向けであれば、今秋に制作予定の冊子「絵本大好き」などを参考にさせていただける。その他、子ども室にて市内の小中学校で使用している教科書の展示コーナーを設置している。国語科の参考図書でおすすめを選んで本を収集して展示し、貸出も可能である。本のリストも作成しているのでご活用いただきたい。

委員 他の図書館では「おすすめブックリスト100」のような情報があり、自身も利用することがある。人気がある本や、新しく出版されている絵本の情報などを、ぜひ教えていただきたい。

事務局 他県では学年ごとにリスト化するなど、掲載している本を貸し出しできるようにセット組みされていることもある。そういった図書館を参考にしながら、当館でも今後展開していければと考える。まずは、教科書コーナーを設置し参考図書などを揃えて充実させていく。

委員 市の中心部から遠い学校としては、駅前にある市立図書館の役割は大きい。期待している。

委員 郊外の学校や関係者にとって、移動図書館の存在はありがたい。小学校からの要望を待つだけ

でなく、図書館側から教育委員会を通じて積極的に小学校に出向きたいという要望をあげて調整をしてほしい。新規の登録者数が減っているということなので、できれば学校へ出向いた際に小さな子どもたちに登録を促し、今後長く図書館を利用してもらえるようなきっかけ作りをしてほしいと思う。

事務局 昨年、移動図書館「いずみ号」が論田小学校へ出向いた。論田小学校から要望があり、社会教育課と調整を行い、実施した。2年生を対象に、移動図書館の利用体験と本館の紹介、読み聞かせを行った。今後なかなか足を運べない学校へも出かけていきたいと思う。

<質疑応答②：利用統計について>

委員 図書館全体の利用に占める子ども割合は、どの図書館も比率が減っていきいていると思う。図書館概要 P54 の利用状況の詳細な統計をみると、市立図書館についても、本館の子どもの利用は約35.6%、全体で約37%になる。これまでの説明を聞いていると、特に子どものイベントに注力しているが、それでも全体の利用に4割に達していない現実がある。徳島市外の県下の市町村や全国的にも子どもの数が減っていることを考えると、図書館の利用が減ることは当然かもしれないが、児童の利用について今後どのように見越しているのか伺いたい。おはなし会やイベントを毎日2回実施しているなど、特に力を入れている事は分かった上で、子どもの利用が増えるような方策を考えていれば教えてほしい。

事務局 現状、市内の年代別人口と図書館の利用人数の比率は、30代、40代の女性の方が一番高く、雑誌や5類の料理や手芸の分野を利用している。子どもについては、小学校未満は6割程度、小学校の低中学年でも6割程度、高学年では4割程度、中学校になると2割程度と低くなる。やはり、保護者の方と一緒にないと図書館に来られない現状があるので、いずみ号を利用させていただくということが考えられる。また実際に図書館利用してくださっているお子さんが、このまま図書館を利用してもらえることが希望だが、中学校以上になると、部活や塾、受験などで図書館に継続してきてもらうことが難しくなってくる。図書館に興味をもって利用してくださっている6割程度の子どもたちをどうやって大切に育てていくかが重要と考えている。

委員 全国的な少子高齢化の時代の中で、高齢の方の利用について聞きたい。ある図書館の統計を見て意外に感じたことがあった。70歳までの利用は女性の利用が多い。しかし70歳を超えると人口的には女性が圧倒的に多いのに対して、図書館の利用は男性が多くなっているというが徳島市立図書館の場合はどうか。

事務局 昨年度統計からみると、女性が多く、30代から40代の女性が飛びぬけて多い。高齢の方の利用者数についても女性が男性に比べて1.5倍程度多い。ただ、総貸出冊数は、女性と男性は、ほぼ同じであり、男性の利用頻度が多いと考える。

委員 図書館に長く滞在されている方は高齢の男性が多いように感じるし、女性は長く留まる方は少ないように思うがどうか。

事務局 そのように思う。

委員 いずみ号に関して、巡回日は平日が多く、時間帯も決まっており、巡回地での滞在時間も短い

ことから、利用しにくいという声を聞いたことがある。学校に登校している子どもたちが、平日の授業時間帯に利用できないのは難点である。

<質疑応答③：電子図書館について>

委員 市立図書館本館の蔵書冊数が約37万冊あり、現在電子図書館で利用できるのが、3月末で1,354タイトルとなっている。電子化されている図書は、蔵書のどの程度の割合か。どのような方針で電子図書館を保有しているのか。電子図書館の利用者数は分かるのか。電子図書館が普及していくと来館者が減るのではないか。

事務局 権利などの問題で新刊がすぐに電子化されない現状がある。当館の所蔵は文学が半分ほどを占めるが、ご要望の本がすぐには電子化されないため、我々も「阿波おどりポスター集」「ぼんぼこー阿波の狸の物語ー」など地域の新しいコンテンツを増やしている。選書については、電子図書館のシステム会社の図書館流通センターより、様々なコンテンツ情報などを得ながら増やしている。

委員 電子図書館が普及すると来館者が減るのではないか。

事務局 様々な捉え方がある。紙でないと読まれない方など利用も二分されると思われる。

電子図書館の良さは、来館できない方でも自宅で見ただけという点や、高齢者の方や読みづらい方、視覚に障害がある方にも、字を拡大する機能や読み上げ機能などがあり、機器が整っていれば大変有効的なツールのひとつであると思う。図書館の本がそのまま電子化されているのではなく、電子図書館としてのコンテンツとして販売されているものを購入して、整えているという状況ではある。蔵書の中には、図書館に登録していただいてIDとパスワードを発行して読んでいただくコンテンツと、どなたでも自由に読んでいただけるフリーのコンテンツがある。

委員 パスワードが必要なものと、自由に読めるものとコンテンツの中身によって、変えているのか。

事務局 そのようにしている。

委員 図書館の利用者数にも入るのではないか。

事務局 電子図書館のパスワードを取得していただくには、市立図書館の利用登録が条件になっているので、図書館の利用者カード作成時に電子図書館の利用も併せて案内している。
ご質問いただいていた電子図書館の利用については、昨年度の利用登録が234件あり、毎年この程度を推移している。

委員 電子図書館で借りた場合も返却しないといけないのか。

事務局 期限がきたら自動的に返却される。

コンピューター上にて、自動で返却されるのは非常に便利であるとする。

(4) その他

<質疑応答①：市民双書について>

委員 市立図書館では市民双書、徳島市史をどういった形で扱っているか。

事務局 所蔵があり、一部は販売もおこなっている。絶版になっているものは、電子図書館に登録し、ご覧いただけるようにしている。

委員 現物がないものもあるのか。

事務局 すべて所蔵しており、ご来館いただければご覧いただける。ホームページでも紹介しているので県外からの問い合わせもあり、郵送での販売を利用いただくこともある。徳島の貴重な資料として大切にしている。

委員 そういった郷土の本はまとめて置いているのか。

事務局 市民双書も郷土資料の一部にコーナーがあり、自由に見ていただけるようにしている。

以上